

事業の背景・目的

ツシマウラボシシジミは、国内では対馬にのみ生息するシジミチョウの一種で、2010年ごろには激減、絶滅のおそれのある種の保存に関する法律に基づいて箕面公園昆虫館では平成30年度よりツシマウラボシシジミ生息域外保全事業に参加、生息域外保全を行っている。また、令和3年度からは、近郊弱性を予防するため循環交配により繁殖を開始した。令和4年度以降、3系統の周年維持はクリアできているものの、越冬世代（本種は幼虫で越冬する）においては、もう少し飼育の精度を向上させて安定した維持を目指す必要がある。この状況を早期に打破することが本事業の目的である。

事業の内容

令和5年度

事業ア 累代飼育事業

- ・累代飼育の安定化
- ・越冬に関する技術の向上

事業イ 情報共有促進事業

- ・生息域内保全との連携強化
- ・スタッフのスキルアップ

得られた成果

- ・双眼実体顕微鏡2台を購入し、蛹での雌雄判別をより確実におこなえるように努めた。これまで使用していたものに比べて明るく視野も広いため、効率よく作業をおこなえるようになった。
- ・人員の補強で、作業に余裕が生まれたことにより丁寧に飼育作業をおこなうことが出来た。特に越冬導入時の飼育において休眠導入までの幼虫の死亡率をかなり低く抑えることができた。また、その後の越冬中の死亡率も相当低く抑えることができた。
- ・昨年度と同様に9月に現地視察を実施、対馬市役所および対馬市博物館の担当者に同行を依頼し、成虫発生時期の状況を見るとともに現状を詳細に教わった。また、日本でのツシマウラボシシジミ発見の地である佐須奈にある佐須奈小学校を訪ねて、発見者の甥にあたる現校長から、学校や地元の取り組みについて話を伺う機会が得られるなど、ツシマウラボシシジミに対する造詣がより深まった。